

あおぞら財団 年次報告書

Vol.6

2002.4~2003.3

もくじ

事業のあらまし	2
活動から	4
インターンレポート	16
財政状況	19

2003年10月

財団法人 公害地域再生センター(あおぞら財団)

法人運営

第17回通常理事会を2002年6月16日、第18回臨時理事会を同年9月22日、第19回通常理事会を2003年3月29日に開催した。また第10回評議員会を2002年6月14日、第11回評議員会を2003年3月17日に開催した。この間、第10回評議員会では、真鍋正一前監事の死去に伴い村松昭夫監事を選任した。

財務

今年度は、営業活動の主力を担ってきた傘本宏夫氏が退職したことにより、事業担当者全員が、自分の企画を持って委託業務や助成金先等を獲得していく体制を実施してきた。獲得先や内容、スケジュールなども事務局会議で議論し、計画的に効率的に事業獲得できるスタイルを追究した。また、財団の事業を国の政策に反映させられるよう2、3年先を見通した事業計画をたてることも追究した。

今年度も、超低金利による運用財産の運用益の減少や貸付会費、寄附金の伸び悩みにより厳しい財政運営が続いているが、予算の獲得については最後まで努力を重ね、無駄な経費を省き、人件費の抑制等を行った結果、今年度収支差額のマイナス幅を少額に抑えることができた。

組織活動
事務局

理事長と3人の主任による主任会議による事務局運営から、主任を廃止して事務局会議を軸にした体制に移行。役員やゲストも参加する月1回の拡大事務局会議で事業計画の点検・評価などをすすめる事業執行体制が定着してきた。専門性やマネジメント能力の向上をはかる課題では、財団として計画的に実施することができなかった。環境負荷の軽減については、意識はあるが目標を共有するなどの具体化をしなかったので評価することができない。コストの削減は意識として定着してきた。

賛助会員

個人300人、法人・団体50の2001年度目標は達成することができなかった。現在(2003年3月)個人178人、法人・団体41となっており、漸減傾向に歯止めがかかっていない。目標や対象を絞った意識的な取り組みができなかったという反省のもと、財団主催イベントやリベラ執筆者への協力要請、更新時の声かけなどに取り組み成果を上げてはいるが、減少を凌駕する会員増にはなっていない。リベラのリニューアル、リーフレットの作成など新グッズを活用した意識的で粘り強い取り組み、広報戦略と合わせた計画と実行体制が必要となっている。

●部門別事業

①道路環境政策をつくり、広める活動

西淀川公害訴訟原告団・弁護団、研究者、運動団体関係者らによって構成される「西淀川道路環境対策検討会」を引き続き実施し(4月24日、5月29日、7月17日、8月27日、10月17日、12月13日、1月29日に開催)、「西淀川地区道路沿道環境に関する連絡会」での課題検討、東京大気汚染裁判地裁判決や尼崎公害裁判の公調委へのあせせん申請などの情勢を踏まえた討議、歌島橋交差点歩行者用地下通路設置に伴う横断歩道存廃に関する検討を行った。

また、これまで地元・西淀川区にある中島工業団地の協力を得て進めてきた調査の蓄積を踏まえ、「中島工業団地内での低公害化TDM実験に関する調査研究」(阪大・新田研の協力)、「大都市立地事業者による使用過程の貨物自動車の運用・環境負荷排出実態調査」(環境省請負事業)などの調査を実施した。物流関係のTDM実験の事例が少いなか、2004年度の実験実施を目標に準備を進めている。また、裁判和解後の沿道の大気汚染対策が進まない現状を受け、「西淀川地域の沿道まちづくりのあり方に関する調査」(地域デザイン研究会の協力)を実施した。

さらに、道路環境問題に関する市民向け講座「道路環境市民塾〜クルマ依存社会を考える〜」を実施すべく、学生、教員、研究者、住民運動・環境NGO関係者、弁護士など幅広い層のメンバーによる運営委員会を設置。4月開講にむけて計7回の運営委員会を実施した(9~3月、11回)。

②参加型業務の開拓

まず、2001年度の財団の成果品であり、2002年3月に財務省印刷局より発行された「参加型アセスの手引き」の普及につとめた。また、同「手引き」などを土台に、これまで実施してきた地球環境市民大学校「市民活動のための環境アセスメント講座」の運営の手引きを作成することを環境事業団に提案したところ、今年度と来年度の2年間で業務を実施することとなった。今年度は、そのたたき台を作成し、広島市で開催される同講座を通じてこれを検証した。

次に、これまでに財団で実施してきたまちづくりたんけん隊や環境学習の取り組み、上記「手引き」などの経験を踏まえて、子ども版の手引き書「かぶりとおそろい」のまち調べとマップづくりをせいわエコクラブの協力によって完成させると同時に、普及につとめた。この取り組みは他方面からも注目をあび、「おおさかまちづくりフォーラム/創ろう!ええまち おおさかinこまがわ〜新しい大阪の地域価値創造のために〜」(主催:(社)大阪青年会議所)でのブース出展の依頼をうけ、環境診断マップや参加型アセスメントの手引きなどと共に紹介する機会を得た(8月4日)。

さらに、神戸市須磨区の3つの自治会に協力して、都市計画道路・中央幹線の設計に関する住民合意形成の業務を請け負った。2001年度に継続しての天神町では、道路設計・監理のほか、空き地の有効活用に関するワークショップを開催する業務を行った。また、西須磨東部自治会と月見山自治会連合会による道路設計案づくりにも協力した。地元自治会、事業者(市)、土木系コンサルタント、その他の住民団体などのコミュニケーションをコーディネートする業務(土木系コンサルタントの下請け)は、新しい形のNPO業務として注目をされ、業界誌「積算資料」や「橋梁と都市」などで紹介された。

なお、傘本宏夫氏の退職に伴い、年度当初に計画していた「参加型アセスの手引き」を活用した研修会(市民向け、事業者・コンサルタント向け)の開催および道路設計支援業務や参加型地域づくりに関わる業務開拓は実施できなかった。

良好な大気生活環境推進手法検討業務として、ヒートアイランド対策、光害、騒音の市民啓発パンフレットを作成した。

③市民主体の地域交通の実現をめざす取組み

2001年度作成した「交通環境教育のすすめ〜SCPブロックでみる地域環境の変化〜」の成果をもとに、日本環境教育学会(5月26日)、開発教育協議会全国研究集会(8月3日)にてワークショップを実施したり、大阪YMCA学院高等学校(9月13日)や地元・西淀川高等学校(11月)において授業実践するなど普及につとめた。また、せいわエコクラブとの共同で「地域調べ2〜安心なまち〜」を開催した(3月26日、於:天王寺区聖和地域)。

「まちづくり考える会」と協力して、歌島橋交差点のあり方について「国道工事事務所との交渉をすすめた。地下道が設置された後も地上の横断歩道を残すべきであるというこちらの主張がなかなか聞き入れられない状態ではあるが、継続的に対話の場を持つことは両者の間で確認されている。

①公害病被害者の生活実態を把握する調査の推進

西淀川公害患者と家族の会(以下「患者会」)の協力を得て、会員18名を対象として聞き取り調査をおこなった。18名は、いずれも65歳以上、患者会主催の転地療養事業など健康回復事業への参加が困難であり、要介護状態にあるため、一刻も早い支援を必要としている者であった。調査の結果をとりまとめ、患者会役員会(9月5日)で報告をおこなった。また、第31回定期総会(10月19日開催)議案書に、調査報告書の抜粋が掲載された。

保健、福祉、公害医療など各専門分野にまたがる委員の協力を得て、平成14年度環境省委託業務「公害病認定患者等の療養生活の向上に関する調査研究」を実施した。高齢化がすすむ公害病認定患者の生活実態を把握する調査の具体化にむけて、課題の抽出、調査の手順や結果の集計方法など、調査内容の検討をおこなうとともに、調査票案を作成した。

②公害保健福祉事業モデルプログラムの実施

大牟田市委託の事業として、「大牟田市公害健康被害補償福祉事業発展的調査事業」の業務を実施した。個人参加型によるリハビリテーション事業等の実施や意向などを把握するため、大牟田市公害病患者と家族の会と連携して、アンケート調査、付添い人が参加可能な転地療養事業の試行、病院など関係機関へのヒアリング等をおこなった。

道路環境対策分野での市民参加を進める事業(地域へ入り部門)

公害病被害者の生活実態に基く政策づくり

環境省委託の調査として、「公害病認定患者に対する環境保健活動の効果測定に関する調査研究」を実施した。高齢の公害病認定患者を対象とした水中での運動の取り組みをすすめるため、「水中リラックス教室」セミナーを2回(11月21日、23日)、体験会を3回(11月25日、12月8日)開催し、「教室」の運営方法を普及するための冊子「ぜん息患者のための水中リラックス教室の運営のための手引き」を作成した。

区内僻地にあるミニデイサービスハウス(民間運営による託老所)「ひまわりの家」の庭で、患者会会員や、託老所の利用者などが参加する園芸活動「園芸クラブ」を、大阪テクノホテル園芸専門学校と連携して、4月～12月の間に30回実施した。活動終了時には、参加者、講師、実習授業として参加している専門学校生による懇談会を実施し、活動の感想などについて意見交換をおこなった(11月23日)。

③公害保健福祉事業のあり方に関する政策づくりの推進

環境省による「NGO/NPO・企業環境政策提言」の公募に対して、「高齢化する大気汚染公害健康被害者の実態把握と対策について」をテーマとして政策提言をとりまとめ、応募した(6月)。また、パブリックコメントをおこなう機会を活用して、公害保健福祉事業のあり方等に関する意見を提出した。

①公害問題にかかわる環境教育・学習や研修の推進

これまでに作成した西淀川公害に関する教材を利用しながら、西淀川公害患者と家族の会と協力して、各種研修の受け入れや出前教室を実施した。区内や市内の学校(小・中・高)のみならず、遠方からの修学旅行や宿泊研修など、受け入れ回数はかなり増加した。

自然環境調査としては、北元敏夫・あおぞら財団特別研究員に講師をお願いしてタンポポ調査やセミの抜け殻調べを実施した。

「西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会」を約2ヶ月に1回のペースで実施した。出前教室の方法や、交通環境学習プログラムや「かぶりとエコロジーのまち調べとマップづくり」について検討をおこなってきた。

2001年度に引き続き、環境省委託の環境基本計画推進調査として「パートナーシップによる環境教育・環境学習の推進調査」の業務を実施した。パートナーシップによる環境教育・環境学習のモデル事業の実施とモデルプログラムの作成にむけて、日本環境教育学会と連携して、専門委員会およびワーキングチーム会議を開催した。

②公害問題資料の保存と活用に関する研究の推進

2002年度も昨年度に引き続き、公害健康被害補償協会の委託事業を核にして、活動をおこなった。

財団設立当初から懸念になっている資料館構想については、公害・環境問題資料の保存・活用の動きと両輪のものであり、7月21日に四日市で開催したシンポジウム「公害・環境問題資料の保存・活用ネットワークをめざして」はその出発点である。午前中の見学会の参加者約60人、午後のシンポの参加者130人であった。

昨年度、リハビリおさかの企画展で作成され、財団に寄贈を受けた展示パネルを生かす方途として、10月24、25日に佃中学校で開かれる文化祭での出展をおこなった。

さらに、環境学習との連携については、1月24日に公害問題資料保存研究会において、西淀川高校の松井克行教諭から「環境教育学習の現状と課題—西淀川高校の実践を基に—」と題する実践報告がおこなわれた。

資料の保存・活用を促進する活動としては、刊行物資料や原資料の調査と整理作業を進めた。2002年度の整理資料の中心は財団への寄贈・寄託されたものであり、これらについては財団設立以来各方面からかなりの点数が寄せられている。その資料受け入れシステムづくりについては、公害問題資料保存研究会での検討中の課題である。

一方、住民運動関係の資料とともに、公害行政と住民運動に関わる行政資料の所在調査を開始した。

また、公害問題資料保存研究会コメンターの小田康徳氏が主宰している西淀川地域研究会も財団は協力・参加の形で活動を継続している。第7回を6月27日に開き、富永浩教氏(桃山学院大生)が報告し、第8回は9月26日に小田康徳氏が「公害問題史研究の基本視点」と題する報告をおこなった。第9回は11月28日に開催し、現状での問題点と今後の課題について話し合った。その後、2003年2月から8月の期間で3回の「弁護士が語る西淀川公害裁判—大気汚染公害裁判が私たちに教えてくれるもの—」特別企画を計画し、2003年2月12日には第1回(早川光俊弁護士、津留崎直美弁護士の講演)を開催した。

③自然環境の保全・再生による良好な地域環境をつくる活動

西淀自然文化協会と連携して矢倉海岸での自然観察会を3回実施。9月21日にはエコクラブと共に生きもの調べを行い、子どもたち80人を含む100人が参加した。大阪市立自然史博物館の山西良平学芸員と共に実施した5月28日の調査では、準絶滅危惧種のハクセンシオマネキの巣穴を発見した。

3月31日にはエコクラブの子どもたち70人が大野川緑陰道路を「たんけん」、徒歩や車イスで危険度チェックやタンポポ調査を行った。

矢倉干潟の保全、再生ではNPO政策研究所が開催した「矢倉海岸自然再生研究プラットホーム」に参加、行政関係者、NPO、専門家等の協働による事業のあり方について検討した。

①広報活動

Libellaは、隔月発行とし、頁数を増やして、各重点事業の内容が賛助会員をはじめ幅広く伝わる編集に努めた。2001年度の年報(第5号)を10月に発行した。

利用されるホームページをめざして、毎週1回の情報更新をおこなうようつとめた。ボランティア募集、イベント、新たに作成した刊行物(冊子)やニュース性のある記事などの情報発信については、ホームページやメールなどインターネットを積極的に活用した。

②ネットワーク活動

各事業の実施にあたっては、学生やボランティアなどの幅広い外部人材の協力を得て、すすめることを重視した。また、(財)大学コンソーシアム京都から4名、桃山学院大学から1名のインターン生を受け入れた。インターン実習期間終了後も、財団主催のイベントの企画検討や運営に協力を得た。

全国公害患者の会連合会の活動交流事業に協力して、第6回アジア・太平洋NGO環境会議(2002年11月1～4日、於:台湾)への参加に関するコーディネートをおこなった。また、会議に先立ち、植田和弘氏(京都大学大学院経済学研究科教授、財団評議員)や陳禮俊氏(山口大学経済学部助教授)らの協力により、現地の環境NGOや住民団体との交流をおこなった。

2001年11月23、24日に、「21世紀を環境再生の時代に」をテーマとして開催した「NGO国際会議と市民のつどい」(於:北九州)の、当日の記録および参考資料等を編集して、冊子「環境再生へ向けた世界各地の取り組み」(和英併記)を発行した(平成13年度発行寄附金付広告付書寄附金助成)。

外部への意見発表や委員活動は次のとおり。

環境省によるNGO環境政策提言フォーラムへの政策提言の公募に対して、あおぞら財団からは「高齢化する大気汚染公害被害者の実態把握と対策について」を応募した(6月)。また、大阪府自動車排出窒素酸化物及び粒子状物質総量削減計画策定協議会幹事会にて「大阪府自動車排出窒素酸化物及び粒子状物質総量削減計画」への意見を発表した(12月)。

その他、下記の項目について意見を提出した。

*平成13年度環境省政策評価(8月)*大阪府における土壌汚染対策制度について(10月)*第7次大阪府公害防止計画(10月)*第Ⅱ期大阪市環境基本計画(11月)*兵庫県環境と保全の創造に関する条例の改正(1月)*大阪府自動車排出窒素酸化物及び粒子状物質総量削減計画(3月)

昨年度に引き続き、連絡研究員が(財)大阪人権博物館第3次基本計画策定委員会ワーキング委員を務めた。また、片岡研究員が大阪府立西淀川高等学校評議会委員を務めた。

道路環境対策と地域づくり

〈専門家の力を結集〉

あおぞら財団では、西淀川公害裁判の国・公団との和解を受けて設置された「西淀川道路沿道環境に関する連絡会」での課題を議論すべく、西淀川公害患者と家族の会の委託によって「西淀川道路環境対策検討会」を設置している。理事長曰く、日本の道路環境対策を検討する上において最強の面々が揃っていると自負するメンバー。これまでにあおぞら財団が出してきた「西淀川道路再生プラン（Part 1～5）」の知恵袋として検討を重ねてきた他、西淀川地域の道路環境対策に関する調査・研究の推進母体として重要な役割を果たしてきた。1998年から始まった本検討会も2002年度で4年目。山積する地域での課題を打開すべく、約2か月に1度のペースで開催した。

特に2002年度は、東京大気汚染裁判の地裁判決（10/29）や尼崎公害裁判の公調委へのあっせん申請（10/15）など道路裁判に関わる他地域での動きが活発だったこともあり、これらの動向を踏まえた議論を積み重ねた。

地元・西淀川の課題としては、まず、歌島橋交差点歩行者用地下通路設置に伴う横断歩道存廃に関する検討を行った。次に、中島工業団地の協力を得て「中島工業団地内での低公害化TDM実験に関する

調査研究」（阪大・新田保次研究室の協力）を行った。これは、これまでに継続してきた中島工業団地での物流問題に関する調査の継続で、工業団地内の事業所との共同で社会実験を実施しようとするもの。今年度は基礎調査として、アンケートやヒアリング調査などを行った。さらに、幹線道路の沿道まちづくりのあり方については、「西淀川地域の沿道まちづくりのあり方に関する調査」（地域デザイン研究会の協力）を行った。

なお、今年度から村松昭夫さん（西淀川公害訴訟弁護団、あおぞら財団幹事）に本検討会の座長を務めていただくことになり、より活発な展開を目指している。

〈広範な市民を巻き込んで〉

道路環境問題は、問題の存在それ自体については高度経済成長期から指摘されてきた分野です。また、地域で直接的に道路建設などの問題に経験してしまっている人にとっては、制度上の運用や法律など、何ともし難い巨大な壁と対峙し、公共事業の情報公開や環境アセスメントをはじめとする各種制度への市民参加のあり方が古くから指摘されてきた。地域の公害・環境問題の解決のためにも、地域の道路構造や自動車が抱える問題の解決は避けては通れない

西淀川道路環境対策検討会メンバー（2003年3月31日現在）

コアメンバー

狩又寛敏（西淀川借地借家人組合）
塩崎賢明（神戸大学大学院工学研究科）
西村 弘（大阪市立大学大学院経営学研究科）
新田保次（大阪大学大学院工学研究科）
林 功（大阪から公害をなくす会）

オブザーバー

森脇君雄（西淀川公害患者と家族の会）
辰巳 致（西淀川公害患者と家族の会）
須田 滋（弁護士）
津留崎直美（弁護士）
早川光俊（弁護士）
村松昭夫（弁護士）
山川元庸（弁護士）

子どもはまちの一員

「かぶり」と「えこる爺」の まち調べとマップづくり

(B5版、22頁、500円/会員は400円)

もくじ

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. テーマはなんじゃ!! | 4. お友だちのマップ紹介 |
| 2. 調査にはこれがあるのじゃ! | 5. どでかいマップをつくるんじゃ! |
| 3. いよいよ調査じゃ! | 6. 昔のことを調べるんじゃ! |
| | 7. 未来のまちをつくるんじゃ! |

あおぞら財団で『つくってみよう身のまわりの環境診断マップ』を作成したのが2000年3月。これまで多くの方々からご注文をいただきました。「ぜひ、子ども版の冊子もつくって欲しい」のご要望にお答えして、この度の新刊発行となりました。

まちづくりへの子どもの参画の重要性は言われますが、実際なかなか進まないのが現状。まち調べを行うなかで、様々な対話が生まれていくことを願っています。

学校で、地域で、様々な活動で、是非ともご活用ください。



編集：せいわエコ・サポーターズクラブ
西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会

にも関わらず、一般的には、かたい、難しい、専門的、行政がやること、政治的、などイメージが強く、環境NGO・NPOの間でも関心が薄かったとって過言ではない。

しかし、近年の環境まちづくりや温暖化問題の関心の高まりのなかで、地域の中での道路問題や自動車交通のあり方を考えることは避けては通れない課題になってきている。西淀川での道路環境対策を検討する上においても、地域全体の中でこの問題をどう位置づけていくのかが問題になってきている。

こうした中において、より広範な市民を巻き込んだ活動を展開すべく、道路環境問題に関するセミナーを開催することになり、9月に運営委員会を結成した。メンバーは、学生、教員、研究者、住民運動・環境NGO関係者、弁護士など様々な皆さん。「道路問題といえは？」のブレーストーミングに始って、侃々諤々の議論を約半年つづけ、ようやく2003年4月からの開講をむかえることができた。

交通問題の現状と課題、交通に関する環境学習のワークショップ、フィールドワーク、各地で活動されている皆さんと交流、消費者問題と温暖化問題と自動車交通を融合した学習プログラムづくり、サステイナブルシティの方向性にいたるまで、これまでの道路・交通問題とは違った様々の視点で講座を企

画することができた。

〈子ども向け「環境診断マップづくり手引書」が完成〉

あおぞら財団では、財団設立以来、まちづくりたんけん隊や地域の原風景・原体験の聞き取り調査などを経験を活かして、『都市に自然をとりもどす』（宗田好史他編著、学芸出版、2000年）や『つくってみよう身のまわりの環境診断マップ』（環境庁発行、2000年）、『参加型アセスの手引き』（財務省印刷局発行、2002年）などの成果を出してきた。こうした中で寄せられた「是非とも子ども版の手引書もつくって欲しい」のご要望に答えて、『かぶり」と「えこる爺」のまち調べとマップづくり』を作成した。これは、大阪市天王寺区で活動をつづける「せいわエコクラブ」の全面的な協力により実現したもので、マップづくりやワークショップなどを実際に行うなかで、その蓄積を冊子にまとめることができた。

また、この取り組みは他方面からも注目をあび、「おおさかまちづくりフォーラム／創ろう！ええまち おおさかinこまがわ～新しい大阪の地域価値創造のために～」（主催：(社)大阪青年会議所）でのブース出展の依頼をうけ、環境診断マップや参加型アセスメントの手引きなどと共に紹介する機会を得た（8/4）。

公害病患者の生活実態に基づく政策づくりをすすめる事業（環境保健部門）

公害病認定患者の生活実態把握調査の実施にむけて

【西淀患者会会員への聞き取り調査】

西淀川公害患者と家族の会（以下「患者会」）の協力を得て、会員18名を対象とした聞き取り調査をおこなった。18名は、いずれも65歳以上、患者会主催の転地療養など健康回復事業への参加が困難であり、要介護状態にあるため、一刻もはやい支援を必要としていた。調査の結果をとりまとめ、患者会役員会（9月5日）で報告をおこなった。また、第31回患者会定期総会（10月19日開催）議案書に、調査報告書の抜粋が掲載された。

【公害病認定患者の生活実態調査】

保健、福祉、公害医療など幅広い分野の専門家による協力を得て、平成14年度環境省委託業務「公害病認定患者等の療養生活の向上に関する調査研究」を実施した。高齢化がすすむ公害病認定患者の生活実態を把握する調査をおこなうために、課題の抽出、調査の手順や結果データの解析方法など、具体的な調査内容の検討をおこなうとともに、調査票案を作成した。公害患者の保健福祉に関する課題に関しては、公衆衛生、社会調査、MSW（医療ソーシャルワーカー）、医療福祉、環境社会学などの学識経験者11名、また、公害医療の課題に関しては、呼吸器疾患の専門医師6名による検討をおこなった。

公害保健福祉事業のモデルプログラムづくりをめざして

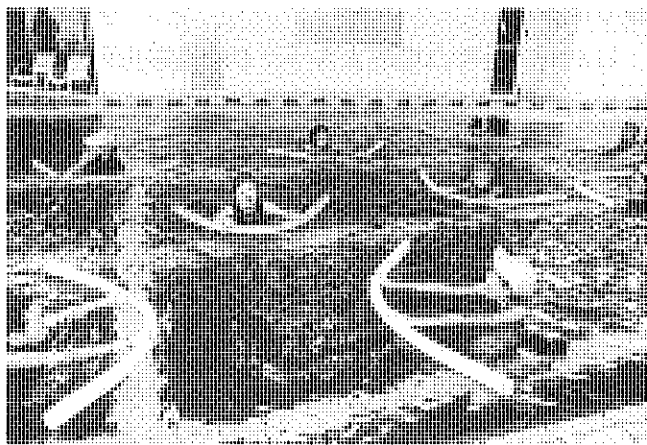
【付添人同行型転地療養パイロット事業】

大牟田市からの委託をうけて、「大牟田市公害健康被害補償福祉事業発展的調査事業」を実施した。個人参加型によるリハビリテーション事業等の実施や意向などを把握するため、大牟田市公害病患

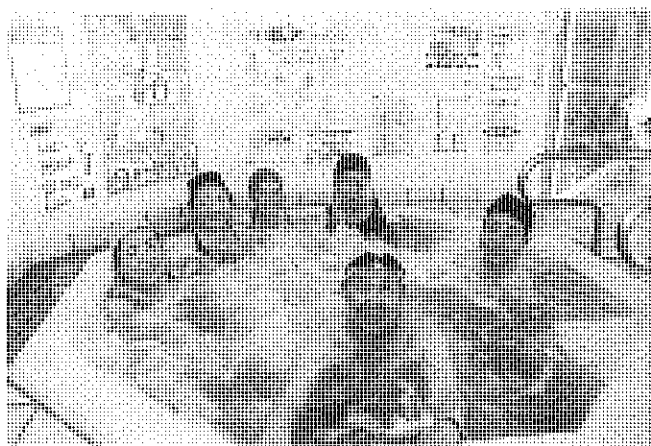
者と家族の会と連携して、アンケート調査、付添い人が参加可能な転地療養事業の試行（3回、9～10月）、病院など関係機関へのヒアリング等をおこなった（3ヶ所）。また、検討会を2回開催し、調査結果の概要を報告するとともに、より効果的な公害保健福祉事業のあり方について討議をおこなった。

【水中リラックス教室セミナー&体験会】

環境省委託の調査として、「公害病認定患者に対する環境保健活動の効果測定に関する調査研究」を実施した。高齢の公害病認定患者を対象として、水中でリラックスしながら運動をすすめるため、「水中リラックス教室」セミナーを2回（11月21日、



水中運動でリラックス



ジャクジーで「はい、ポーズ」

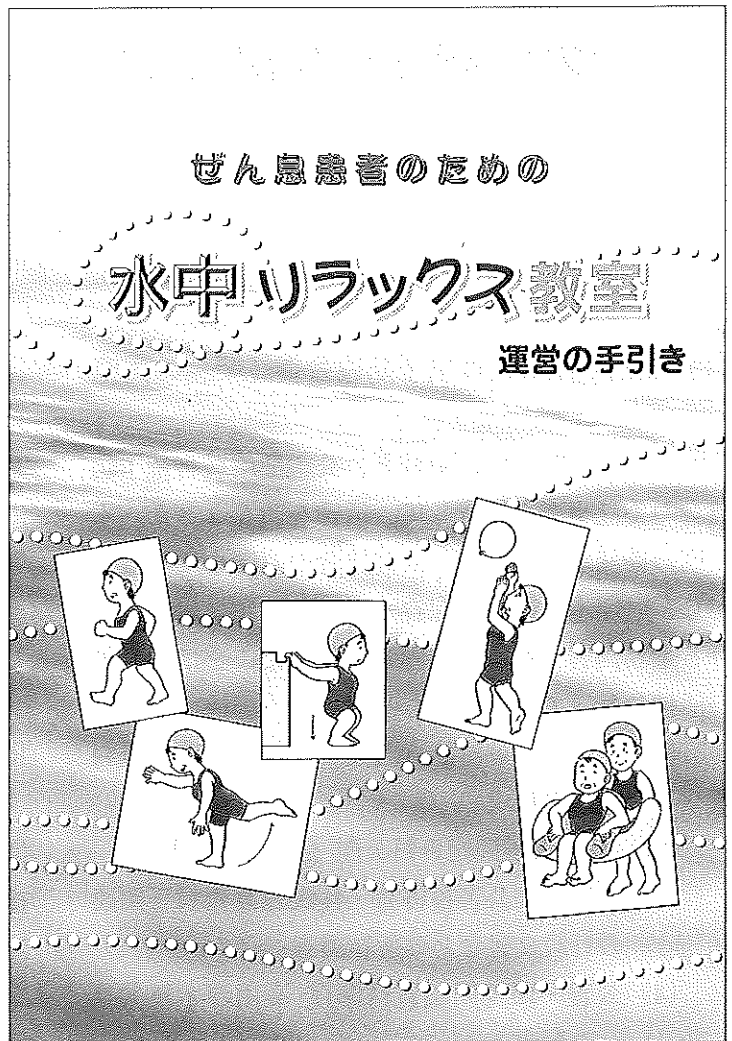
23日)、「体験会」を3回(11月25日、12月8日)開催し、水中リラックス運動のプログラムや「教室」の運営方法を普及するための冊子「ぜん息患者のための水中リラックス教室の運営のための手引き」を作成した。

【西淀患者会『園芸クラブ』への協力】

区内佃地域にあるミニデイサービスハウス(民間運営による託老所)「ひまわりの家」の庭では、大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校および患者会の協力を得て、患者会会員や、託老所の利用者などが参加する園芸活動「園芸クラブ」を、4月~12月の間に30回実施した。この活動では、園芸作業や参加者、ボランティアや学生等との対話を通じて、参加者の心身のリハビリテーション(健康回復・生きがいづくり)をすすめている。活動終了時には、参加者、講師、実習授業として参加している専門学校生による懇談会を実施し、活動の感想などについて意見交換をおこなった(1月23日)。



セラトスティグマ、ランタナ、ハギを使った寄せ植え



冊子「水中リラックス教室運営の手引き」

公害保健福祉事業のあり方に関する政策づくりの推進

【政策提言、パブリックコメント】

前述の患者会聞き取り調査の結果をとりまとめ、第27回全国公害被害者総行動デー環境省環境保健部交渉で、調査結果レポートを提出した(6月7日)。

環境省による「NGO/NPO・企業環境政策提言」の公募に対して、「高齢化する大気汚染公害健康被害者の実態把握と対策について」をテーマとして政策提言をとりまとめ、応募した(5月)。

また、パブリックコメントをおこなう機会を活用して、公害保健福祉事業のあり方等に関する意見を提出した。

公害問題資料館を核にしたフィールドミュージアム事業Part1

（特）公害健康被害補償予防協会委託業務の実施

2002年度も昨年度に引続き、公害健康被害補償予防協会の委託事業を核にして、活動をおこなった。本年度の委託事業内容は、公健協会の意図を反映しながら、財団本来の資料保存や活用の体制により近づける業務内容で進める方向性が出せたことは、今後の活動にとって有意義であった。

- (1) 西淀川公害訴訟弁護団・住民運動関係資料目録の作成
- (2) 公害・環境問題資料公開・活用方策の検討
- (3) 大気汚染公害被害者・住民運動資料と関連の行政文書などの所在調査
- (4) 公害・環境問題資料保存・活用のネットワーク形成

「西淀川の公害展」の開催から資料館設立運動の展望

資料館づくりは、公害・環境問題資料の保存・活用の動きと両輪のものであり、7月21日に四日市で開催したシンポジウム「公害・環境問題資料の保存・活用ネットワークをめざして」はその出発点である。



四日市市内塩浜見学

今後は、ここに集まった様々な団体や個人に情報発信をしながら資料保存・活用のネットワークを拡充し、西淀川公害問題資料を核にした資料館づくりに向けて、内部の合意や世論形成をめざす一歩となった。午前中の見学会の参加者約60人、午後のシンポの参加者130人であった。

昨年度、リパティおおさかの企画展で作成され、財団に寄贈を受けた展示パネルを生かす方途として、10月24、25日に佃中学校で開かれた文化祭で出展した。

さらに、環境学習との連携については、1月24日に公害問題資料保存研究会において、西淀川高校の松井克行教諭から「環境教育学習の現状と課題—西淀川高校の実践を基に—」と題する実践報告がおこなわれて、教育現場における資料の保存と活用の意義について、より具体的な資料活用についての示唆をうけた。

資料の保存・活用を促進する活動としては、職員とアルバイトを中心にして、4人のインターン生が刊行物資料や原資料の調査と整理作業を進めた。今回の整理資料の中心は財団へ寄贈・寄託されたものであり、これらについては財団設立以来各方面からかなりの点数が寄せられている。その資料受け入れシステムづくりについては、現在も公害問題資料保存研究会で継続して検討されている。

公害問題資料の保存と活用に関する研究の推進

一方、住民運動側所蔵の資料とともに、公害行政と住民運動に関わる行政資料の所在調査を開始したことの意義も大きい。

また、財団主催の活動ではないが、財団関係者が中核となっている西淀川地域研究会も継続して活動をしている。第7回を6月27日に開き、富永浩教氏（桃山学院大院生）が報告し、第8回は9月26日に小田康

徳氏が、「公害問題史研究の基本視点」と題する報告をおこなった。第9回は11月28日に開催し、現状での問題点と今後の課題について話し合った。その後、2003年2月から8月の期間で3回の「弁護士が語る西

淀川公害裁判—大気汚染公害裁判が私たちに教えてくれるもの—」特別企画を計画し、2003年2月12日には第1回（早川光俊弁護士、津留崎直美弁護士の講演）が開催された。

反公害運動の継承を

【四日市】四日市公害判決三十周年を記念し、公害・環境問題資料の保存、活用ネットワーク化を目指すシンポジウムが二十一日、四日市市防町の市総合会館であり、資料保存、活用に取り組む研究者や市民団体のメンバーら約百人余りが参加した。各地の公害被害者や反公害運動経験者の高齢化でだいに薄れて



いく経験・記憶と、時の経過で埋もれ、破棄されていく資料を、市民の共通財産として

資料の保存活用 ネットワーク化

後世にいかにか伝えていくかを話し合った。大阪市西淀川地域の再生事業でなくならないためには貴重な資料になる」と発言。川

四日市でシンポジウム 公害判決30周年記念

資料の活用を話し合った市総合会館の市防町

業や公害経験の継承に取り組む「公害地域再生センター」（森脇君雄理事長）と「四日市公害を記録する会」（澤井余志郎代表）が、公害・環境問題に取り組む全国の研究者ら関係者に開催を呼び掛けた。

資料の重要性などを指し、公害被害者の女性や会場から「私たちにとって必

公害問題資料保存研究会代表の芝村篤樹・桃山学院大学教授は「公害の経験を残すことについて社会的合意ができていない」と述べ、資料保存活動と同時に、合意形成の重要性を強調した。パネリストは、横矢重中・環境省大臣官房総務課課長補佐や藤波敏雄・四日市市史資料庫庫長、小川千代子・国際資料研究所代表、高野秀男・新潟水俣病共闘会議事務局長、佐賀朝・桃山学院大学助教授、達臨明子・公害地域再生センター研究員の六人。それぞれの問題意識から公害の経験を伝える上で、患者ら市民の中に埋もれている公害

師の公害問題にかかわる男性研究者は、「学者の研究資料集めの観点だけでなく、運動主体の世代交代の面からも資料の保存、活用が大事」と述べた。

公害問題資料館を核にしたフィールドミュージアム事業Part2

公害問題にかかわる環境教育・学習や研修の推進

今年度の特徴としては、これまでに作成した西淀川公害に関する教材を利用しながら、西淀川公害患者と家族の会の語り部活動と協力して、多くの研修の受入や出前教室を実施したことがあげられる。遠方から訪れてくれる修学旅行や宿泊研修などもあった。とくに6月に岐阜県大垣西中学校から訪れた生徒数は、70人という大所帯で、こうした規模の受入は初めてのことだった。「まちづくり考える会」と共同で、受入の準備や当日の案内などにあたった。西淀川区内をまわる6コースを設定し、それぞれグループごとに公害・環境問題について勉強できるよう工夫をした。



教材や学習プログラムづくりにあたっては、小・中・高等学校の先生、エコクラブの実践者、交通工学の専門家などで構成される「西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会」を引き続き2ヶ月に1回のペースで開催した。ここでは出前教室の方法や、交通環境学習プログラムにくわえて、環境診断マップづくりのための子ども向け冊子『かぶりとえころ爺のまち調べとマップづくり』などについて検討をおこなった。

地域の自然環境調査としては、継続的に実施して

いるタンポポ調査とセミの抜け殻調査を北元敏夫・あおぞら財団特別研究員に講師をお願いして実施した。これらプログラムづくりや自然環境調査等の活動には環境事業団地球環境基金の助成金を活用している。環境省からの受託業務としては、2001年度に引き続き環境基本計画推進調査「パートナーシップによる環境教育・環境学習の推進調査」を実施した（2カ年の事業）。パートナーシップによる環境教育・環境学習のモデル事業として、全国で7団体の活動を紹介し、あわせてモデルプログラムの試案をまとめた。本業務では日本環境教育学会との連携のもとに、専門委員会およびワーキングチーム会議を開催した。

自然環境の保全・再生による良好な地域環境をつくる活動

西淀自然文化協会と連携して矢倉海岸での自然観察会を3回実施した。大阪市立自然史博物館の山西良平学芸員と共に実施した5月28日の調査では、準絶滅危惧種のハクセンシオマネキの巣穴を発見した。9月21日にはエコクラブと共に生きもの調べをおこない、子どもたち80人を含む100人が参加した。3月31日にはエコクラブの子どもたち70人が大野川緑陰道路を「たんけん」、徒歩や車イスで危険度チ



ェックやタンポポ調査をおこなった。

矢倉干潟の保全、再生ではNPO政策研究所が開催した「矢倉海岸自然再生研究プラットフォーム」に参

加し、行政関係やNPO、専門家等の協働による事業のあり方について検討した。

2002年度の受入・出前教室

日付	内 容
4/ 1	大阪民医連医学生研修。大阪民医連医学生ネットワーク春合宿プログラムの一部を受け入れた。
4/25	高根県鹿島町立鹿島中学校(3年生)修学旅行「大阪一日研修」。福祉・ボランティアグループ5人を受け入れた。
5/29	名古屋市立富士中学校(3年生)修学旅行施設見学。3人
6/ 6	大垣市立西中学校(2年生)宿泊研修。70人。まちづくり考える会と連携して受け入れた。
7/12	地域人権教育推進委員会研修。此花区、福島区、西淀川区内の小中学校の先生8人が参加。
7/26	韓国司法修習生の研修。6人の司法修習生が参加。まちづくり考える会と共同で受け入れをおこなった。御幣島地区の視察をおこなった。
8/21	全国高校生部落問題研究集会の全国代表者学習交流集会。国道43号の沿道を歩いて視察した。約60人参加。
8/23、24	第1回「地域と環境科学」研究全国集会。全体会、分科会での報告と矢倉海岸視察の案内をおこなった。約30人参加。
9/ 9	佃中学校職員人権研修会で報告。西淀川の環境問題についての先生を対象とした研修会。約20人参加。
9/13	YMCA学院高等学校「総合的な学習の時間」で報告とワークショップ(SCPブロックを使った交通環境学習)。20人参加。
9/15	第11回全国教育研究交流集会であおぞら財団の公害・環境学習について、元歌島中学校教諭西川氏と共同発表。
10/11	歌島中学校(1年生)に出前教室(西淀自然文化協会と協力)。西淀川の自然をテーマに授業をおこなった。
10/15	歌島中学校(1年生)に出前教室。生徒の一人が進行役になって患者さんとの懇談をおこなった。
10/24-25	佃中学校の文化祭で西淀川公害コーナーにてパネル展示。リパティおおさかから寄贈を受けたパネルを活用した。
10/25	JICA(国際協力事業団)研修コース集団研修員の受け入れ。海外からの研修員は8人。
10/28	歌島中学校(1年生)に出前教室(西淀自然文化協会と協力)。西淀川の自然をテーマにフィールドワークをおこなった。
11/ 1	和歌山大学・神吉紀世子先生のゼミ生(2人)受け入れ。患者さんの自宅訪問を含む現地案内をおこなった。
11/ 2	マスターズボランティア大学のフィールドワーク受け入れ。当日実施されていた「どんぐりフェスタ」(主催:西淀自然文化教会)の見学を含む。
11/ 6	西淀川高等学校(3年生)に出前教室。松井克行教諭によるSCPブロックの実践授業の一環として、西淀川の道路環境対策について授業をおこなった。
11/13	姫里小学校(4年生)に出前教室。財団が作成したパネル(16枚)を使った授業をおこなった。
11/16	立命館大学・大島堅一先生のゼミ生の受け入れに協力
11/22	佃中学校(2年生)の職場体験の受け入れ。生徒4人が財団と患者会の業務を体験した。
12/ 9	佃中学校(1年生)に出前教室。1年生全員が体育館に集まって授業をおこなった。
2/ 4	西淀川高等学校(3年生)に出前教室。弁護団の協力を得て、8クラス同時に授業をおこなった。
2/ 7	西淀川高等学校冬季校外学習に協力。西淀自然文化協会とともに、矢倉海岸での野鳥観察等をおこなった。

リベラ 2002年度

2002年4・5月号 No.66

- ＜表紙＞西淀川に学ぼう 修学旅行生の訪問相次ぐ
- ＜特集＞リパティおおさか企画展「西淀川公害と地域の再生」
 - ・リパティおおさか記念行事「西淀川公害被害と地域の再生」Part 2 (森脇君雄・芝村篤樹)
- ＜西淀川地域研究会から＞
 - ・片岡法子「公害問題資料ってなんですか？(1)」
 - ・「2002(平成14)年度あおぞら財団の事業計画」
 - ・漢雲の電話帖「30番テントとクバトンの町」
- ＜イベント等案内＞
 - ・第7回西淀川地域研究会
 - ・矢倉海岸定例探鳥会
- ＜2002年3月1日～3月31日＞
 - ・事務局日誌
 - ・図書・資料寄贈者
 - ・寄付・寄贈者

2002年6・7月号 No.67

- ＜表紙＞ブロックでみる環境の変化～教材づくりのための冊子できる～
- ＜特集＞地球環境市民大学校
 - ・西尾雄太郎「平成13年度環境事業団地球環境基金 地球環境問題総合講座」
 - ・達脇明子「平成13年度環境事業団地球環境基金 市民活動のための環境アセスメント講座」
- ＜地域から＞
 - ・伊藤真美子「映画『ランドセルゆれて』に寄せて」
 - ・鎗山善理子「西淀川を舞台にした映画があった」
- ＜西淀川地域研究会から＞
 - ・片岡法子「公害問題資料ってなんですか？(2)」
 - ・「元気もりもり、西淀川の仕事おこし・まちづくりワークショップ」に参加して
- ＜ボランティア募集＞
 - ・ホームページの更新ボランティアを募集しています
- ＜イベント等案内＞
 - ・第8回西淀川地域研究会
 - ・矢倉海岸定例探鳥会
- ＜2002年4月1日～5月31日＞
 - ・事務局日誌
 - ・図書・資料寄贈者
 - ・寄付・寄贈者

2002年8・9月号 No.68

- ＜表紙＞○公害・環境問題資料 ネットワークづくりへ保存、活用でシンポジウム
 - 四日市公害から何を学び引き継ぐかー判決30周年でつどいー
- ＜特集＞シンポジウム 公害・環境問題資料の保存・活用ネ

ットワークをめざして

- ・芝村篤樹「基調報告とまとめ」
- 【事例報告】
 - ・横矢 重中「環境省文書の保存の現状について」
 - ・小川千代子「国立公文書館への文書の移管状況と課題」
 - ・藤浪 敏雄「四日市市史の編さんと澤井資料について」
 - ・高野 秀男「『新潟水俣資料館』の設立と現状について」
 - ・佐賀 朝「歴史資料ネットワークの史料保存活動」
 - ・達脇 明子「西淀川公害裁判を中心とする公害問題史料の保存と活用」

【会場から】

- ・白神加奈子「患者のカルテが捨てられないように」
- ・永野千代子「『語り部』も資料保存の一環」
- ・達脇明子・鎗山善理子「地域や学校での環境学習で活用を～これまでの活動と教材・資料の紹介～」
- ・「『西淀川公害』で模擬授業 小、中の先生が研修会」
- ・片岡法子「平成13年度環境基本計画推進調査費『パートナーシップによる環境教育・環境学習の推進調査』」
- ・北元敏夫「桜古木と老翁」
- ＜イベント等案内＞
 - ・第8回西淀川地域研究会
 - ・矢倉海岸定例探鳥会
- ＜2002年6月1日～7月31日＞
 - ・事務局日誌
 - ・図書・資料寄贈者
 - ・寄付・寄贈者

2002年10・11月号 No.69

- ＜表紙＞生き物調査に親子108人 矢倉干潟に歓声響く
- ＜特集＞公害病患者の健康回復をめざしてー財団の環境健康事業からー
 - ・牧洋子「高齢期にある『西淀川公害患者と家族の会』の会員調査を実施して」
 - ・尾陰由美子「『水中リラックス教室』で健康づくり」
 - ・太田周作「『ひまわりの家』の庭での園芸活動ー学生と共に2年目前半を終えて」
 - ・矢羽田薫「平成13年度環境省委託業務『公害病認定患者等の療養生活の向上に関する調査研究』の報告」
 - ・片岡法子「韓国訪問記～『公害・環境問題 日韓交流大会』に参加して～」
 - ・達脇明子「公害・環境問題資料の保存・活用について寄せられた意見ー四日市公害裁判判決30周年を記念して開催したシンポジウムのアンケートからー」
 - ・中村 勲「人間回復」
- ＜イベント等案内＞
 - ・第9回西淀川地域研究会
 - ・矢倉海岸定例探鳥会

<2002年8月1日～9月30日>

- ・事務局日誌
- ・図書・資料寄贈者
- ・寄付・寄贈者

2002年12・2003年1月号 No.70

<表紙>楽しい『水中リラックス教室』～温水プールで健康づくり～
謹賀新年

- <特集>東京大気汚染公害裁判と今後の課題
- ・西村隆雄「東京大気判決行動と今後のたたかい」
トヨタ自動車「確認書」(写)
 - ・西 順司「運動で切り開いた成果を確信に」
東京大気汚染公害裁判原告団長他「声明」
 - ・村松昭夫「大気汚染公害裁判の到達点と今後の課題」
 - ・判決行動に参加して(財団事務局より)
 - ・片岡法子「交通環境教育とまちづくりのためのワークショップ～ブロックを使って地域の大气汚染の変化を学び対策を考えよう～」

<公害・環境問題資料の保存と活用をめぐる>

- ・西淀川公害裁判と私(裁判当初の頃)

<新刊紹介>

- ・子どもはまちの一員‘かぶり’と‘えころ爺’のまち調べとマップづくり

<イベント等案内>

- ・2002年度第2回公害問題資料保存研究会
- ・矢倉海岸定例探鳥会

<2002年10月1日～11月30日>

- ・事務局日誌
- ・図書・資料寄贈者
- ・寄付・寄贈者

2003年2・3月号 No.71

<表紙>西淀川高校で授業 被害者の訴えに目を潤ませて

- <特集>大阪・西淀川の自然環境と西淀自然文化協会
- ・村瀬りい子「学んだことは子どもたちに～西淀自然文化協会の活動」
 - ・山西良平「ハクセンシオマネキのいる矢倉海岸～注文される神前川左岸の干潟」
 - ・橋本正弘「矢倉海岸の自然再生について」
- <アジアの環境NGOをたずねて>
- ・矢羽田薫「台湾環境NGO訪問とAPNEC-6への参加ー活動交流事業の概要ー」
 - ・星 純子「全国公害患者の会連合会の活動交流事業に参加して」

<西淀川地域研究会から>

- ・片岡法子「公害問題資料ってなんですか?(1)」
- ・「2002(平成14)年度あおぞら財団の事業計画」
- ・漢雲の電話帖「30番テントとクバトンの町」

<新刊紹介>

- ・子どもはまちの一員‘かぶり’と‘えころ爺’のまち調べとマップづくり

<イベント等案内>

- ・弁護士が語る「西淀川公害裁判」ー大気汚染公害裁判が私たちに教えてくれるものー
- ・エコクラブ地域たんけん 大野川緑陰道路を調べてみよう
- ・矢倉海岸定例探鳥会

<2002年12月1日～2003年1月31日>

- ・事務局日誌
- ・図書・資料寄贈者
- ・寄付・寄贈者

財団を支える賛助会員になってください

あなたの会費、寄附ボランティア活動が当財団の活動を支えています。
当財団の目的に賛同してくださるみなさん、ぜひ賛助会員になってください。
ボランティアも募集しています。

会費

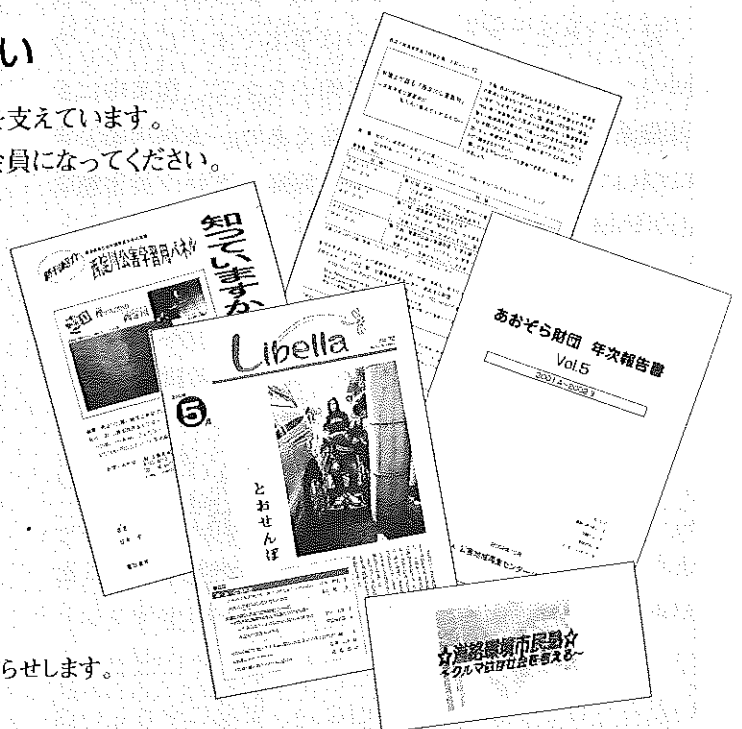
個人賛助会員 年 5000円
法人・団体賛助会員 10000円

会費・寄附の振込先

郵便振替口座 00960-9-124893
加入者名 あおぞら財団

賛助会員になると…

- ・機関紙Libellaをお届けします。(年6回)
- ・年報をお届けします。(年1回)
- ・財団の主催するイベント、講座、研究会などの情報をお知らせします。
- ・会員限定のいろいろな割引があります。



2002年度に受入れたインターンは5人。資料保存の作業を中心に財団の様々な事業に関わった。それぞれの思いをファイナルレポートから要約した。

(見出しも編集部)

公害は終わってないを実感

矢根 大輔

大気汚染公害についての認識が大きく変わったことが最初に挙げられます。大気汚染公害の被害者がかかるとぜんそくについて、自分の認識がいかに甘かったかということが、今回のインターンシップを通して知ることができました。

命と生活に関わる問題

私はこれまで、ぜんそく持ちの人と接する機会が何度かありました。従兄弟にも子供のころ軽い小児ぜんそくだった人がいました。今思えば、当時の私には気づかなかった苦労や苦しみが多々あったのでしょうか、日常生活を見ている分には不自由な様子はなかったのに、公害病のぜんそくについても、他の公害病に比べて軽く見ていたところがあったのは事実です。しかし、今回のインターンシップでの活動のなかで、作業中に公害関係の資料に触れる機会が多くあり、大気汚染公害についてのビデオを見る機会も何度かあり、公害患者の方の話や聞く機会もありました。そのなかで、公害患者の人たちがいかに苦しんできたか、どれだけたいへんな思いをしてきたかがよくわかりました。大気汚染公害が、命にかかわり、生活にかかわる問題であることを、痛切に感じました。

また、公害はまだ終わったわけではないのだということも、実感することができました。道路公害を中心に、まだまだ改善しなければならないことが多くあることが良くわかりました。「西淀川道路環境再生プラン」のイラストのような街には、なかなかすぐにはならないだろうけど、はやく公害のない、環境にやさしい西

淀川の町になればと思います。

当時の「道具」に感動

公害問題関係の資料は、当時の公害問題の状況を正しく認識し、公害問題の歴史を風化させることなく後世に伝えていく上でたいへん重要な役割を持っています。今回のインターンシップでは、これらの資料を利用しやすくするための、資料の目録づくりに多くの時間を使いました。しかし、インターン期間中にできた目録は、全体のほんの一部だけでした。しかし、資料数が多くなればなるほど、データベース上での管理が重要になってきます。利用できる状態にあってはじめて資料保存の意味があるのだということが、よくわかりました。公害問題において、関係資料の保存・整理がいかに重要であるかということを知ると同時に、それが考えていた以上にたいへんな労力がかかることがわかりました。口で言うよりもずっとたいへんな作業だということを実際に感じることでできただけでも、良かったと思います。

作業を通じて様々な資料に目を通すことができたのも良かったと思います。よくわからないものも多々ありましたが、ピラや機関紙、新聞記事などをまとめることも多く、公害の様子や裁判運動の様子などを知る上で、とても参考になりました。特に、当時運動に使っていた横断幕等の運動道具を見たときは、実際にこれを使っていたのだなという実感がわいて、すごく感動しました。(やね だいすけ・立命館大学理工学部)



どんぐりフェスタを支えるスタッフにも…

負の遺産を貴重な財産へ

森本 純代

私が一番長い時間をかけたのは西淀川公害患者と家族の会が発行している新聞・「青空」の目録作りであった。

学習・団結・行動

この新聞は約30年前より発行されているもので、この新聞が西淀川公害訴訟で果たした役割は大きいと思った。西淀川公害裁判で特徴的なことは原告が主体的・積極的に裁判を開いたことであるのだが、それに伴う団体行動が持続するために患者の方が一貫して続けたことは「学習・団結・行動」である。今自分たちが置かれている状況を正確に把握し、これからどのように行動していくべきかを考え実行していくためにより多くの人々が問題を認識することが大切である。中でも補償法の解説や転地療養の告知など、直接生活や健康に関わる情報も分かりやすく解説してある。また大阪市公害被害者救済制度の継続実施や内容改善の対市交渉、環境庁・国会に対する請願の状況を紙面で紹介するなど、情報を広く共有する姿勢が窺える。

さらに、西淀川公害訴訟の動向だけに留まらず、川崎や倉敷といった同じ大気汚染の苦しみを経験している地域のことも取り上げて、互いに協力しているのが分かる。一つの地域に限定するのではなく、全国規模のネットワークを作るといのはすごいアイデアだと思った。

塚口さんのお宅へ

フィールドワークにも参加させてもらった。西淀川緑陰道路という歩行者・自転車専用の道路を通り、かつての被告企業の合鉄の工場や矢倉海岸のハクセンシオマネキという希少な生き物が息している大阪でも数少ない干潟を見学し、現在、西淀川公害の語り部活動を続けておられる公害患者の塚口アキエさんのお宅を訪れて、詳細な裁判に伴う活動の記録や当時の生活の様子などを聞かせてもらった。

塚口さんは公害が一番酷かったときは窓を開けると部屋中に煤塵が入って来て机などがすぐにザラザラになるから、常に布巾を置いて拭いていたそうで、この習慣は未だに残って

いるということ、喘息は対処療法しかないために今でも治らず、タンが絡むから手を伸ばせばすぐにティッシュを取れるように壁に吊り下げておくといった工夫をしていることなど、実際に目で見て知る事実もあった。その塚口さんが社会問題研究会で西淀川を訪れた高校生に対して自身の経験談を語るのを聞き、実際に国道43号線沿いを歩いて光触媒の白壁やNO2の濃度計測機器を見たりして道路公害とその対策の現状を知る機会があった。国道43号線は大型のディーゼル車が絶え間なく通り、その騒音は普通の喋り声を消すほどで、ゴムとガソリンの混じったような鼻をつくような悪臭と埃っぽさで、数十分歩いただけで気分が悪くなるほどであった。

何も知らなかった自分

今回のこのインターシップを通じて、私が感じたことは二つある。一つは外部から知る情報と内部に入って知る情報のその量の差である。実習先があおぞら財団に決まった時、自分なりにあおぞら財団のこと、そして西淀川公害の事を調べてみたけれども実際に実習が始まって当事者のお話や現在の取り組みのお話を聞いていると結局自分は何も知らなかったのだなと痛切に思った。インターネットなどで知り得た情報はあくまで入り口に過ぎず、本当にその事を知ろうとするのであれば直接その事に関わった人たちの話を聞かなければいけないなと思った。二つ目は西淀川公害についてのみならず資料保存の意義や街づくりのあり方についても再度勉強になったと思っている。これまで西淀川が経験してきた公害や裁判、そして街づくりへの関わり方など他地域にも共通する項はたくさんある。近年のアジア諸国での急速な工業発展に伴う公害被害を打破すべく、韓国やその他の国からの訪問者があることにも頷ける。西淀川公害は、住民の健康や生活を害したという意味では負の遺産であるが、この経験を生かして国内外を問わず様々な地域での公害防止または改善、市民参加の街づくりが行われることで貴重な財産になって行く。そのためによりいっそうの資料保存の推進や街づくりの政策決定の場への市民参加が進む方向に社会全体が向くことが重要であると痛切に感じた。(もりもと すみよ・仏教大学社会学部)

活発な議論 すばらしい

堀江安由美

私は7月29日から8月9日までの2週間、インターンとして受け入れていただきました。私は、大学ではボランティアサークルに所属していて、NPOなどの団体にとっても興味を持っていました。そして、運営の仕方など中身を見てみたい、と思いあおぞら財団を選びました。2週間という限られた時間で、できるだけ多くのことを吸収しようと私なりに努力しました。

次の世代へ伝えること

まず、初日にビデオであおぞら財団を紹介していただきました。患者さんの普段の生活やメッセージを見て、公害の惨さを感じ、それを発生させている企業にとっても腹が立ちました。公害問題はこれまでに小・中・高の授業の中で学んできましたが、身近に感じることはないまま過ごしてきました。学校の授業では教える側の勉強不足だったのではないかと、自分のことのように、真剣に話をしてくれた矢羽田さんを見てそう思いました。大学で教職課程を履修している私は、人に教えるという立場で中途半端ではいけないと思いました。そして、2度と過ちを繰り返さないために次の世代へ伝えること、啓発活動の大切さを感じました。

大きな達成感

次に、「パートナーシップによる環境教育・環境学習の推進調査」のアンケート調査結果をまとめて、協力してくださった団体へ発送するという作業を担当させてもらいました。この作業を通じて、何かの事業を進めたり教育・学習の場においてパートナーシップの大切さを知ったのですが、問題点もあって団体を行政・

企業・学校・市民団体とわけてみてみると相互理解が完全にはできていないことがわかりました。また、このアンケート結果を送ることもあおぞら財団とその団体とのパートナーシップへの第一歩と聞いて、このような作業に関わらせていただけてとてもうれしくおもいました。この作業がすべて終わった時は大きな達成感を感じました。

次に、四日市シンポジウムの参加者のアンケートをまとめました。「資料保存」についてあまり意識したことがなかったので、このようなシンポジウムが開かれていることを知り驚きました。しかし、情報を共有することの意義またそのむずかしさなどを知ることができました。

自分の考えをしっかりとって

その他にも資料の目録作り、ホームページの項目追加、シンポジウム参加者の名簿作り、事務局会議にも参加させていただきました。財団の研究員のみなさんと同じ場所で作業をさせていただいたわけですが、くだらない上下関係がなく自分の考えをしっかりとっていらっしかったです。いつも活発な議論がなされていてとてもすばらしいところだと思いました。あおぞら財団のみなさんが目の前の問題に対して真剣に取り組んでいることが私にもわかりました。このインターンの実習を通して、社会に出る前の私としては大変有意義な時間を過ごさせて頂けたと思います。2週間という短い時間でいろいろなことを教えていただきました。ありがとうございました。(ほりえ あゆみ・桃山学院大学社会学部)



ハンセン病施設・外島保養院の慰霊祭で献花

最も住民に近い視点でニーズに対応

尾上 夏子

被害は目につきにくい部分から浸透

私は、最終日に公害患者さんにお話を聞かせていただいた。わたしの中で、公害は身近なものでなく、教科書で4大公害裁判を習った程度の遠い存在のように思っていた。お話を聞く前は、私の中で公害は想像でしかなかった。しかし、そこで得たものは、実感である。体験をお聞きして苦しむ家族の様子、家庭の崩壊を目の当たりにし、ひどい時期は洗濯物が黄色くなるほどだったそうだ。私は、他人事のように思えず、戦後の急速な高度経済成長は罪のない、住民の犠牲の上に成り立っているのだと感じた。しかも、その被害は最も目につきにくい部分から浸透していくものなのだ。しかし、こうした苦勞は声を出さないと気づかれないことなのだと感じた。泣き寝入りする住民も多くいたはずである。お話をお聞きして、公害被害の苦しさとともに、裁判の闘争についてもお聞きしたが、裁判のための署名活動で全国を回られて座り込みをなさったことなど、お話しぶりからその道のりと歴史を強く受け止めることができた。

公害は被害が出て、裁判にならなければ、社会に目が届かない。公害が環境を壊し、一番守られるはずの人間としての生きる権利が企業の利益によって脅かされたのである。皮肉なことに人間の健康の保障より、利益を優先させてしまったのだ。

利潤追求と環境保全は、矛盾するように考えられてきた。しかし、環境に配慮することが利益に結びつく政策をすべきであると思う。現在、循環型社会という言葉をよく聞くが人類の生存の基盤である環境を整えることと経済を支えることがイコールになる方向を探

っていきたいと思う。

パートナーシップを考える機会

私は、実習初日で、行政とのパートナーシップを考える機会を得た。歌島交差点撤去の問題に関するミーティングであったが、行政の対応と住民の意思のすれ違いを目の当たりにし、立場の違うもの同士の対立を読み取ったのだ。しかし、こういう話し合いはとても進歩的だと思う。昔なら、行政に全てお任せで文句のいえる状況ではなかったはずだ。それを財団は、その働きかけにより、意思の交換会の必要性から地域市民の手によってまちづくり研究会ができたり、地域懇談会によって、地域の総意を確認する場が設けられるという画期的な活動に大きく貢献しているといっていよう。これは、財団が存在しなければ、ここまで地域市民の直接的な意思は表明できなかったであろうし、こうした会の継続により、今はまだまだ遠い道のように思えたが、財団がパイプとなり、両者の意見が反映されるような政策が作られていくべきである。

委託事業が、理念にそっていればよいが、拡大しすぎて本来のあおぞら財団にしかできないような事業がなおざりになってしまわないよう注意する必要があるように思える。あおぞら財団は、住民運動の延長であるとも取れるので、最も住民に近い視点でニーズに即対応できる団体だと思う。委託事業に負われすぎず、ボランティアに動ける余地を少しでも残していく必要があるように感じる。(おのえ なつこ・立命館大学国際関係学部)



横断幕も貴重な資料

西淀川公害反対運動に使われた横断幕の整理をしました。横断幕を年代別に分け、ダンボールに入れ、いつでも検索できるようにパソコンに入力する仕事です。横断幕や旗に書いてある文字には、西淀川の公害患者の切実な願いが一言で書かれてあり、その言葉の重みはすごいものがあるなと感じました。

仕事の意味を理解する

西淀川公害裁判反対運動の最中に作っていただいた新聞「青空」の目録作りをしました。目録作りは、新聞を読んで、短い言葉で他の人が読んでもわかるように要点をつかまないといけない作業でした。文章力のない自分にとっては、とても難しい事でした。初め方は修正だらけで、何が何だかよくわかりませんでしたし、どうすればいいのかもわからなかったのですが、途中で主観的に考えすぎていて、客観的に見ていなかった事に気づきました。仕事を任されて、それをただ単にしているだけでその仕事の意味を理解していませんでした。このことに気づいたことは自分にとってとてもよかったと思います。

肌で公害を感じる

西淀川を自転車で散策し、公害患者の人の家に行きました。西淀川地区を実際に見てみると色々な事を感じました。この地区には本当に多くの道路(国道43号線、2号線、高速道路)があり、空気が汚くNO2が大量に発生していて臭い時があります。公害患者のおばあちゃんの家近くには企業の工場があり、昔はその工場が出す煙が家の中まで入ってきていたそうです。その

公害被害を体で実感

村上 裕史

当時、顔を洗うと水が真っ黒になったり、洗濯をしてもすぐ汚い煙で汚れたり、家の中も拭いても拭いても汚れるのでおばあちゃんはいつも机を拭いていたので、今でも机を拭く癖がついており、公害の爪跡を感じました。

おばあさんの夫は、喘息でなくなっていました。その話を聞いて本当に何の罪もない人が苦しみ、死んだりすることはおかしいと思いましたし、自分がもし公害患者だったら絶対に許せないので反対運動に参加していると思いました。生の公害患者の声が聞けて、貴重な経験ができましたし、肌で公害を感じることはできました。

僕は、この10日間で公害の被害を体で実感しましたし、西淀川公害反対運動の歴史もだいぶんわかるようになりました。そして、大事だと思った事は、「百聞は一見にしかず」ということと、行動すること、そして今自分が生きているこの時代は、多くの人達が反映の裏で苦しんでいたとしっかりと認識して生きなければならなかったことでした。また、西淀川公害反対運動を命がけて頑張っていたこと、そして、その運動によって裁判で勝訴して、公害を認めさせたことは本当に尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。(むらかみ ゆうし・龍谷大学法学部)

2002年度の財政状況

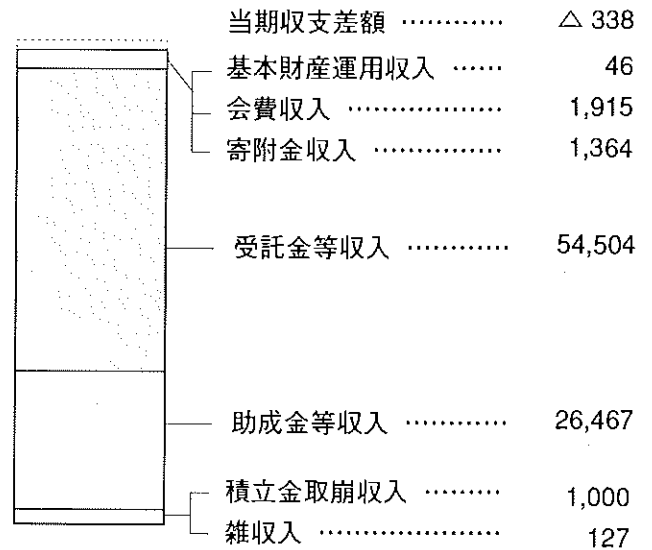
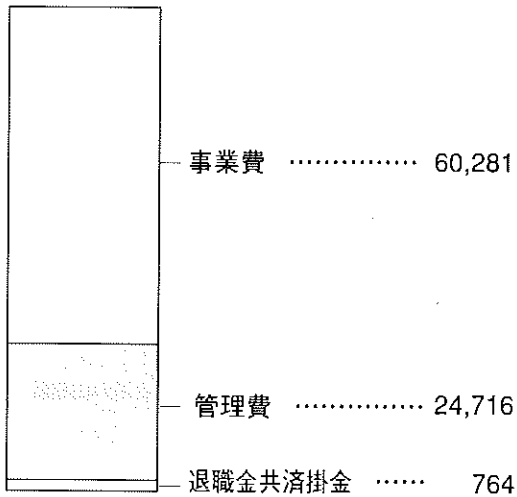
(2002年4月1日~2003年3月31日)

●当期収入・支出の状況

(単位：千円)

支出 合計 85,761

収入 合計 85,423

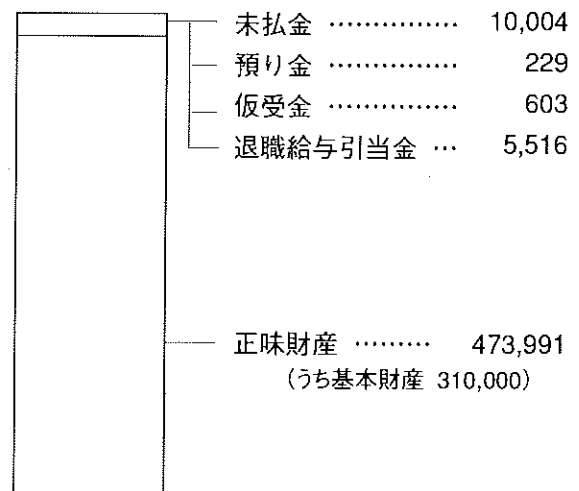
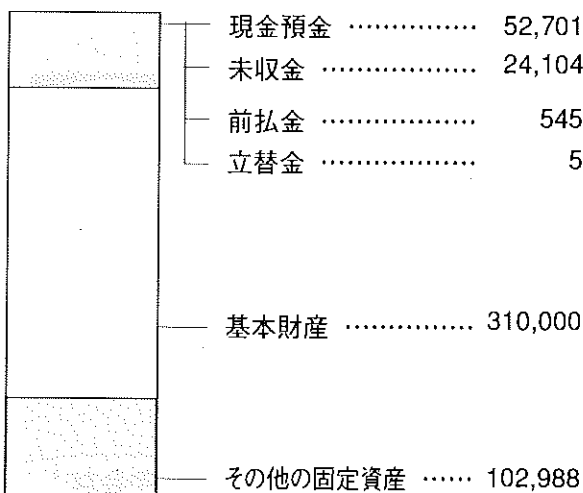


●貸借対照表

(単位：千円)

資産 合計 490,343

負債・正味財産 合計 490,343



寄附・寄贈者（敬称略）

(株)アーシン	傘木隆介	卓吉子	平川千宏
(株)アーバン・プランニング研究所	金谷邦夫	武田隆広	フェラリー・アレサンドロ
相川泰	河崎美栄子	田中千	福富和夫
青木智弘	関西NGO協議会	樽野美千代	福本富男
アジア経済研究所	岸本博	中国公害被害者法律援助センター	福山孔市良
安達たみ子	木村邦男	津下佳世	藤岡貞彦
飯島伸子先生記念刊行委員会	倉敷公害患者と家族の会	津留崎直美	牧洋子
井奥圭介	(株)グリーン情報	徳本文三郎	松井克行
井奥圭介	黒岩晴子	長井聖治	松尾英輔
池田圭子	小山仁示	中島晃	(財)水島地域環境再生財団
石田幸彦	是枝洋	永野千代子	南区公害患者と家族の会
伊藤卓次	佐賀朝	中村勲	三宅宏司
上田幹枝	坂井久五	中山徹	三宅直美
遠地昭典	坂本美き子	なにわ保健生活協同組合	村杉幸子
遠藤宏一	塩貝隆夫	新村保子	村松昭夫
逢坂隆子	篠原義仁	西口勲	森本純代
(社)大阪自治体問題研究所	芝村篤樹	西村弘	山口企画
岡林一夫	(株)ジョイックス	西淀川公害患者と家族の会	山崎圭一
尾崎寛直	庄谷邦幸	新田保次	(株)山崎シャーリング
小田康徳	進士五十八	日本機関紙協会大阪府本部	湯浅精二
甲斐道太郎	関原真喜	長谷川慧重	吉田巖
香川雄一	全国公害患者の会連合会	花田昌宣	医療法人親仁会米の山病院
笠井俊彦	台湾環境保護連盟	林つや子	

あおぞら財団の組織と運営

理事会

寄付行為のもと、事業と財産を管理し、その執行に責任を持つ機関。
年に2回の通常理事会のほか、臨時理事会を開催する。

評議員会

寄付行為のもと、理事、監事を選任するとともに、執行機関である理事会を点検・助言する機関。

事務局

理事会、評議員会による事業の執行および財団運営を支える組織。
事業計画の立案と執行計画、点検と事業報告の作成などの日常業務の推進をになう。

事務局会議

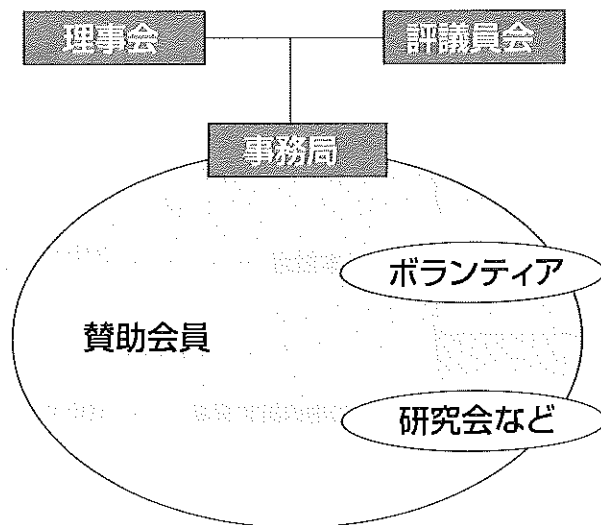
理事長と事務局員で構成。理事会の負託を受けた財団の事業および日常業務の推進・管理について決定、実行する機関。週1回開催。

拡大事務局会議

事務局会議に役員に参加を得て、執行機関(理事会)と事務局の意思疎通を図るとともに事業の円滑な推進を図る。月1回開催。

賛助会員

財団を支え、活動に参加するための支援組織。Libellaは会員交流紙。



当財団の事業には多くの研究者・専門家・市民が関わっている。「2002年度の活動から」で紹介できなかった研究会などの協力者のみなさんを紹介する。

(敬称略,肩書きは当時)

環境省委託

「公害病認定患者等の療養生活の向上に関する調査研究」

環境省請負

「公害病認定患者に対する環境保健活動の効果測定に関する調査研究」

検討会委員

- 逢坂 隆子 四天王寺国際仏教大学大学院人文社会学研究科人間福祉学専攻教授
- 太田 映知 全国公害患者の会連合会事務局長
- 尾陰由美子 (有)アクトスペース企画代表取締役、健康運動指導士
- 金谷 邦夫 生活協同組合ヘルスコープおおさか うえに生協診療所 所長、内科医師(※本検討会座長)
- 中山 徹 大阪府立大学社会福祉学部教授
- 橋本 孝子 財団法人淀川勤労者厚生協会西淀病院医療ソーシャル
- 牧 洋子 ワーカー、社会福祉士、介護支援専門員
大阪体育大学健康福祉学部教授

ヒアリング委員

- 穩久 英明 財団法人淀川勤労者厚生協会西淀病院医師
- 川崎美栄子 医療法人此花博愛会伝法高見診療所所長、医師、大阪府保険医協会副理事長
- 里見 和彦 倉敷医療生活協同組合水島協同病院医師、内科診療部 長
- 高木 弘己 協立総合病院医師
- 船越 正信 尼崎医療生活協同組合理事長、潮江診療所所長、医師

オブザーバー

- 織原 泰 社団法人大阪自治体問題研究所事務局長
- 堀畑まなみ 桜美林大学コア教育センター専任講師
- 除本 理史 東京経済大学経済学部助教授
- 平井 亜也 健康運動指導士、地域スポーツ級水泳指導員

公害健康被害補償予防協会委託

「大気汚染公害問題資料の保存とデジタル・アーカイブ化に関する調査研究」専門委員会

- 太田 映知 全国公害患者の会連合会事務局長
- 小田 康德 大阪電気通信大学工学部教授
- 小山 仁示 関西大学名誉教授 委員長
- 佐々木和子 阪神・淡路大震災記念協会専門嘱託、桃山学院大学非常勤講師、関西大学非常勤講師
- 芝村 篤樹 桃山学院大学経済学部教授

道路環境市民塾運営委員会

- 昌子 裕一 立命館大学国際関係学部学生
- 左成 志朗 甲南大学社会科学部研究科法学専攻修士課程
- 辰巳 致 西淀川公害患者と家族の会
- 松井 克行 大阪府立西淀川高等学校
- 南 聡一郎 京都大学大学院経済学研究科経済動態分析専攻修士課程
- 松村 暢彦 大阪大学大学院工学研究科助手
- 宗岡 明弘 西須磨都市計画道路公害紛争調停団
- 村松 昭夫 弁護士
- 森本 純代 佛教大学社会学部学生
- 山本 将 (特活)環境安全センター

公害問題資料保存研究会コアメンバー

- 奥村 弘 神戸大学文学部助教授
- 小田 康德 大阪電気通信大学工学部教授
- 佐賀 朝 桃山学院大学経済学部助教授
- 佐々木和子 桃山学院大学非常勤講師、関西大学非常勤講師
- 芝村 篤樹 桃山学院大学経済学部教授 座長
- 辻川 敦 尼崎戦後史聞き取り研究会代表
- 津留崎直美 弁護士、大阪西淀川大気汚染公害訴訟弁護団事務局長
- 早川 光俊 弁護士、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議(CASA)専務理事
- 原田 敬一 佛教大学文学部教授

西淀川公害に関する学習プログラム作成研究会

- 天野憲一郎 大阪市立姫里小学校教諭
- 西口 勲 元大阪市立歌島中学校教諭
- 原田智代 せいむエコクラブ代表サポーター、京都精華大学
- 藤井省三 大阪市立姫島小学校教諭
- 松井克行 大阪府立西淀川高等学校教諭
- 松村暢彦 大阪大学大学院工学研究科助手

環境省委託・環境基本計画推進調査

「パートナーシップによる環境教育・環境学習の推進調査」

専門委員会

- 赤尾整志 全国学校ビオトープ・ネットワーク理事
- 金田 平 (財)日本自然保護協会理事
- 谷口文章 甲南大学教授、日本環境教育学会 事務局長/ワーキングチームと併任
- 藤岡達也 大阪府教育センター指導主事/ワーキングチームと併任
- 藤野耕一 大阪ガス(株)環境部部長
- 村松昭夫 弁護士
- 山田卓三 名古屋芸術大学教授
- 若生謙二 大阪芸術大学助教授

ワーキングチーム(日本環境教育学会ワーキンググループ)

- 飯沼慶一 成城学園初等学校教諭
- 岡村悦治 グローバル環境文化研究所主任研究員
- 木内 功 (財)大阪府青少年活動財団企画業務課主幹
- 福島 古 環境戦略解析機構理事長

西淀川子どもエコクラブ

- にしよどおやこ劇場の子どもたち
- 西淀川学童保育所の子どもたち

あおぞら財団の活動に関する資料

■ 財団の活動に関する報道関連資料

2002.05.27	朝日(夕刊)	四日市判決30年 公害の痛み消さない 証言や資料DB化試み 大阪市の団体協力
2002.05.27	朝日(夕刊、名古屋版)	共に守る公害の記録 四日市公害を記録する会 西淀川・名古屋南部各地に連携呼びかけ 資料を整理し共有
2002.06.23	中日(朝刊)	四日市公害訴訟判決から30年 資料保存・活用でネットワーク化を
2002.07.21	毎日(中部版、朝刊)	四日市公害判決から30年 「つどい」で元原告が訴え
	読売(")	四日市市公害判決30周年「自然戻ってこそ」
	中日(")	公害資料の保存活用で意見交換 四日市でシンポ
	伊勢(" 夕刊)	四日市公害判決から30周年 環境の再生が課題
	朝日(")	「公害経験伝えたい」四日市判決30年のつどい 資料館建設願う
2002.07.22	伊勢(" 朝刊)	反公害運動の継承を 資料の保存活用ネットワーク化
	朝日(")	「公害資料」の散逸防ごう 共有、ネットワーク化訴え
	朝日(朝刊)	伝える 四日市公害判決30年 青空再生へ全国ネット
2002.07.24	伊勢(")	公害体験、風化させな 四日市公害訴訟30年 資料保存のネット構築
2002.08.26	朝日(夕刊)	希少カニ 西淀川安住 水辺の感激守らなアカン ハクセンシオマネキ
	『PORTAL』(月刊、018 2002.10)	準絶滅危惧種「ハクセンシオマネキ」を河口で確認 発見場所を環境・共生のシンボルゾーンに
2002.11.20	読売(朝刊)	ぜんそく患者らに水中教室 西淀川・あおぞら財団あすから
	『ザ・おおさか淀川版』(No.98、2003.3)	知ってるようで、知らないまちの宝探し"アイデアブック"完成

■ 職員の対外活動(委員、講師、研究・意見発表など)

傘木宏夫

- ・西宮北口北東地区の区画整理を考える会学習会(8月7日)
- ・「西淀川における地域再生活動」(シンポジウム「四日市公害から何を学び、引き継ぐか」7月20日)

片岡法子

- ・「SCPブロックを用いた交通環境教育」松井克行氏、松村暢彦氏との共同発表(『日本環境教育学会第13回大会・仙台』 5月26日)
- ・「地域から考えるまちづくり」(3行政区〔阿倍野、住吉、東住吉〕連絡学習会「地域から考えるまちづくり学習と運動交流会」 7月23日)
- ・「交通環境教育とまちづくりのためのワークショップ―市販ブロックを使って、地域環境の変化を学び、対策を考えよう―」松井克行氏、松村暢彦氏との共同発表(『第20回開発教育全国研究集会』8月3日)
- ・西淀川高等学校学校評議会委員就任(2月から)
- ・若者のためのボランティア入門セミナー(大阪市 3月13日)

達脇明子

- ・大阪人権博物館(リパティおおさか)第3次基本計画策定委員会ワーキングチーム委員
- ・「あおぞら財団の公害・環境学習事業」(第11回全国教育研究交流集会第9分科会:総合学習としての環境問題の教材化 西口勲氏との共同発表 9月15日)
- ・「公害・環境問題資料の保存・活用をめざして」(大阪歴史学会『ヒストリア』2002年11月)

鎗山善理子

- ・「公害環境学習の修学旅行受入れと出前教室」(第1回「地域と環境科学」研究全国集会 分科会報告 8月24日)
- ・「あおぞら財団の公害・環境学習と資料保存」(NPO法人西山外三記念『すまいまちづくり文庫レター No.17 会員だより』9月1日)

矢羽田薫

- ・「園芸療法を活用したまちづくり―あおぞら財団の取り組み―」(⑩グリーン情報『日本における園芸療法の実際 30の実践例を中心に』2002年11月)
- ・「公害地域の環境再生をめざして―2002年度の取り組み―」(全国公害弁護団連絡会議『公害弁連第32回総会議案書』2003年3月)

■ 財団としての発言・意見

- ・環境省「平成14年度NGO／NPO・企業環境政策提言」への応募(5月9日提出)
- ・環境省「平成13年度環境省政策評価(案)」に対する意見(8月14日提出)
- ・「大阪府における土壌汚染対策制度」に関する意見発表(8月26日提出)
- ・「大阪地域公害防止計画」への意見(10月21日提出)
- ・平成13年度環境省の政策評価に関する意見(10月29日提出)
- ・「第Ⅱ期大阪市環境基本計画(素案)」への意見(11月28日提出)
- ・環境省「環境保全活動の活性化方策(中間答申)への意見」(12月5日提出)
- ・大阪府自動車排出窒素酸化物及び粒子状物質総量削減計画策定協議会・幹事会での意見(12月6日提出)
- ・兵庫県「環境の保全と創造に関する条例」の一部改正への意見(1月27日提出)
- ・「大阪府自動車排出窒素酸化物及び粒子状物質総量削減計画(概案)」に対する意見(3月11日提出)

■ 財団の活動に関する成果(報告書など)

◆ 地域づくり部門

- ・『平成14年度 西淀川地域沿道まちづくりに関する調査 報告書』
- ・『中島工業団地での低公害化TDM実験に関する調査研究報告書』
- ・『平成14年度大都市立地事業者による使用過程の貨物自動車の運用・環境負荷排出実態調査報告書』
- ・『かぶりとえころ爺のまち調べとマップづくり』
- ・『良好な大気生活環境推進手法検討業務調査報告書』

◆ 環境保健部門

- ・『平成14年度公害病認定患者等の療養生活の向上に関する調査研究報告書』
- ・『ぜん息患者のための水申リラックス教室運営の手引き』
- ・『西淀川公害患者と家族の会会員聞き取り調査報告書』
- ・『平成14年度大牟田市公害健康被害補償福祉事業発展的調査事業報告書』

◆ 公害経験部門

- ・『平成14年度環境基本計画推進調査費(政策分)パートナーシップによる環境教育・環境学習推進調査調査報告書』
- ・「公害経験に関する学習教材の研究・作成事業」(平成14年度地球環境基金助成金活動実績報告書)
- ・「大野川緑陰道路における市民ボランティアによる2002年度セミ、タンポポ調査報告」(財団特別研究員北元敏夫氏作成)
- ・「2002年度矢倉海岸定例探鳥会記録」
- ・「自然観察地図・矢倉海岸」
- ・「協働による自然再生型活用事業の実用化調査業務報告」
- ・「大気汚染公害問題資料の保存とデジタル・アーカイブ化に関する調査研究」
- ・『西淀川公害訴訟関係弁護団・住民運動資料 第1次目録(第5集)』
- ・『シンポジウム公害・環境問題資料の保存・活用ネットワークをめざして レジュメと資料集』

◆ 広報・ネットワーク活動

- ・『リベラ』No.66～71、『年次報告書』Vol.5
- ・『環境再生へ向けた世界各地のとりくみ』(平成13年度発行寄附金付広告葉書寄附金受配事業)

- 理事長 森脇 君雄 (全国公害患者の会連合会幹事長、西淀川公害患者と家族の会会長)
- 理事 アグネス・チャン (歌手、日本ユニセフ協会大使、教育学博士)
 金谷 邦夫 (うえに生協診療所所長、内科医師)
 塩崎 賢明 (神戸大学教授・同大学院自然科学研究科教授、都市計画)
 芝村 篤樹 (桃山学院大学教授、日本近代都市史)
 進士五十八 (東京農業大学学長、造園学)
 早川 光俊 (弁護士、地球環境と大気汚染を考える全国市民会議専務理事)
 宮本 憲一 (滋賀大学学長、環境経済学)
 村松 昭夫 (弁護士)
 森脇 昭夫 ((財)地球環境戦略研究機関理事、中央環境審議会会長、名古屋大学名誉教授、法学)
- 監事 熊野 實夫 (公認会計士)
 福本 富男 (弁護士)
- 顧問 高橋理喜男 (大阪府立大学名誉教授)
 都留 重人 (一橋大学名誉教授)
- 評議員 天野 明弘 (関西学院大学教授、環境経済学)
 植田 和弘 (京都大学大学院教授、環境経済学)
 逢坂 隆子 (四天王寺国際仏教大学大学院教授、公衆衛生学)
 太田 映知 (全国公害患者の会連合会事務局長、(財)水島地域環境再生財団理事・事務局長)
 神吉紀世子 (和歌山大学システム工学部助教授、農村計画)
 北元 敏夫 (同志社大学講師、西淀まちと自然の会幹事、森林生態学)
 小池信太郎 (公害・地球環境問題懇談会幹事長)
 高田 研 (岐阜県立森林文化アカデミー教授、環境教育)
 高田 昇 (立命館大学教授、大阪都市環境会議幹事長、都市計画)
 辰巳 致 (西淀川公害患者と家族の会事務局長)
 壺井 貞志 (大阪環境保全事業協同組合理事長)
 津留崎直美 (弁護士)
 林 功 (大阪から公害をなくす会事務局長)
 樋口 市蔵 (西淀川地域振興会会長)
-
- 事務局 上田 敏幸 (総務)
 大野みさ子 (会計)
 片岡 法子 (研究員)
 達脇 明子 (研究員)
 鎗山善理子 (研究員)
 矢羽田 薫 (研究員)
 水野 順子

あおぞら財団の基金には、大気汚染によって健康や生命を奪われた患者たちが起こした西淀川公害裁判の和解金の一部があてられています。



財団法人公害地域再生センター(あおぞら財団)

〒555-0013 大阪市西淀川区千舟1-1-1 三洋ビル4階
 TEL: 06-6475-8885 FAX: 06-6478-5885
 URL: <http://www.aozora.or.jp/>
 E-Mail: webmaster@aozora.or.jp

無断転／掲載を禁じます。